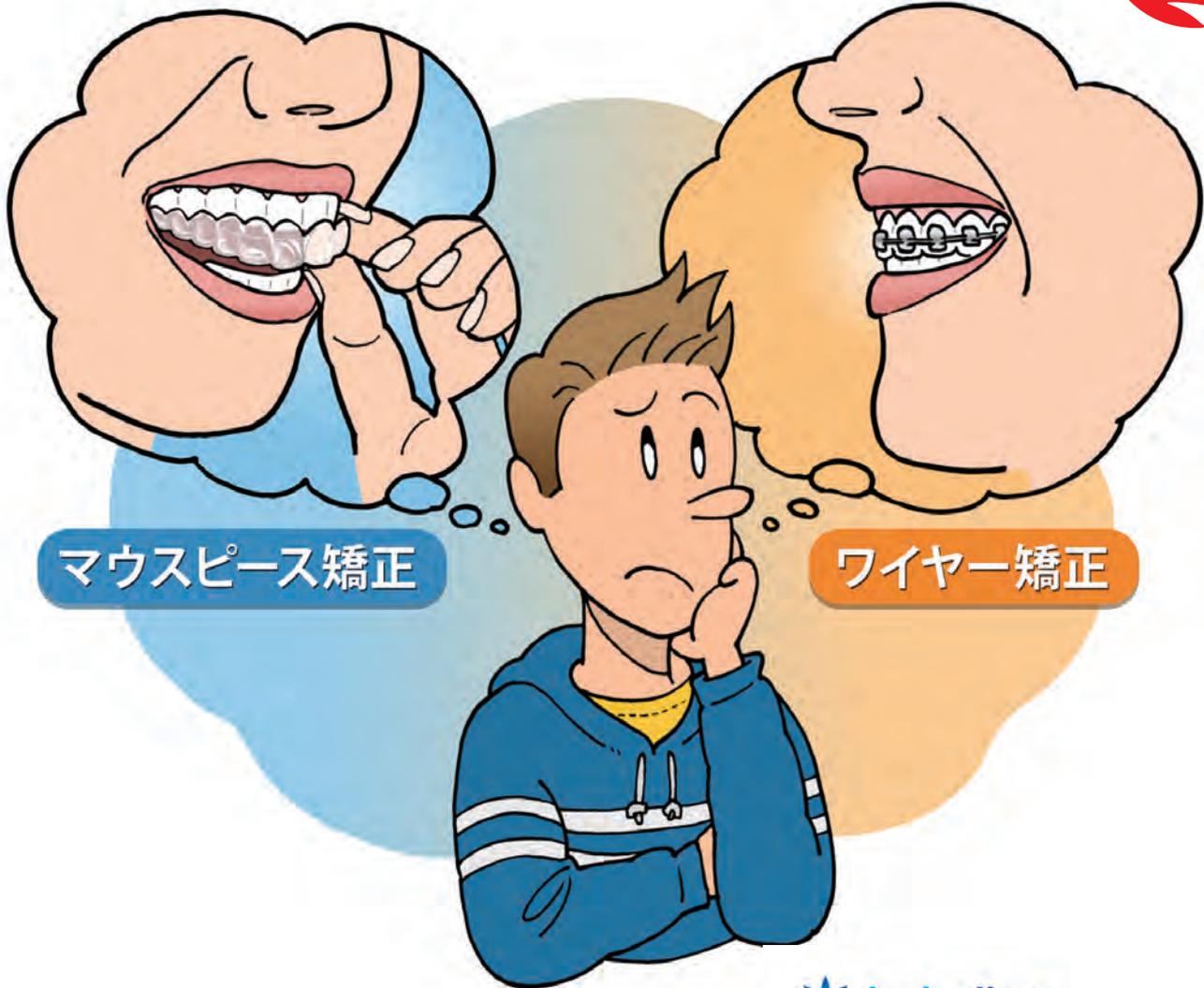


Face to Face

Tobita Dental Clinic

歯科一般/小児歯科/予防管理/口腔外科/インプラント/矯正歯科/審美歯科

11-19 Hirose, Kita-ku, Okayama-city, Okayama-pref 700-0806
Tel 086-222-3194 <http://www.tobitadc.jp/>



インビザライン矯正



インビザライン矯正は、私がおススメしているマウスピースの矯正治療です。

私とインビザライン矯正との出会いは2010年にさかのぼります。私の所属しているODRG(※)の例会で京都の先生から「東京銀座で開業している同級生が取り入れているアメリカから導入した新しい矯正治療」として紹介されたものでした。それまでの常識をくつがえすワイヤーを使わないマウスピース矯正に、出席者一同は驚き、この治療方法を会として研究していくことになりました。この先生には関西で開催している例会に東京から何度も足を運んで頂き、

これまでの臨床例や治療方法、今後の可能性について講演していただきました。また、矯正専門医の意見を聞いたり、関連する講演会に参加して会として多角的な検討を繰り返しました。その結果、インビザラインの可能性の確信を得られ、前向きに導入することになりました。 [中面につづく](#)

(※)ODRG(大阪デンタルリサーチグループ)
1962年に創設された勉強会で、長年に渡って歯科哲学と咬み合せのことを研究してきたグループです。私は1994年からこの会のメンバーとして月1回の例会に参加しています。



インビザライン矯正

その後は、東京銀座で開業されているインビザライン矯正のアジア地区の指導医ともご縁ができ、私のインビザライン矯正に関する診断や治療計画のご指導と監修の契約を結んでいただくことになりました。また、日本国内で初めてインビザラインを導入された昭和大学歯学部矯正科の榎教授が主催されている国内唯一の勉強会にも参加させていただけることになり、最新の情報と臨床でのポイントを常に得られる環境を整えられることができ、飛田歯科医院として導入することができました。

一般的にはインビザライン矯正は矯正装置が目立たないことが注目されていますが、私たちは従来の矯正学では無理だと考えられていた補綴学の咬み合わせの理論を応用できる画期的な治療方法として注目しています。

そもそも矯正学は、歯の動かし方と歯並びが研究されてきました。一方、補綴学は（義歯、インプラント、歯に冠をかぶせる治療）総義歯から始まり、しっかり咬めるための上下の位置と、下顎を動かした時の歯の接触関係が研究されてきました。つまり、矯正学と補綴学は共に歯科大学で学ぶ同じ歯科医学ですが共通点が少ないのです。

私は20年以上前に、共通点がないことに疑問を感じて矯正専門医と20時間以上議論したことや、有名大学の矯正学講師とも議論したことがありました。しかしながら共に話が全くかみ合わず???だけが残りました。当時はそれを打ち破るだけの知識も技術も無かったので、お蔵入りとなっていました。その考えに光明が差したのがインビザライン矯正です。

インビザライン矯正が従来の矯正治療より優れている点

①ムシ歯や歯周病になりにくい

従来のワイヤー矯正は個々の歯に様々な装置と針金を取り付けられますが、インビザライン矯正は小さな突起を取り付けるだけです。そのため、通常と変わらない歯磨きでムシ歯や歯周病を予防することができます。



②歯や顎関節にやさしく痛みが少ない

矯正期間中は歯が移動するため咬み合わせが変化し続けます。そのため一部の歯や、顎の関節に無理な力が加わり痛みの原因になることがあります。また、歯や顎の関節へのダメージにもなります。インビザライン矯正は歯がマウスピースで覆われているため、マウスピースを外したとき以外は上下の歯が接触することはありません。（マウスピースを外すのは食事の時）そのため、歯と顎関節にやさしく、歯ぐきや頬粘膜を傷つけることも殆どありません。



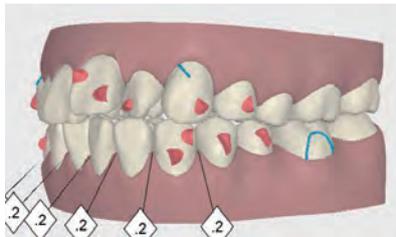


③咬み合わせを考慮した治療が可能

インビザライン矯正は従来の矯正治療ではできなかった最適な顎関節の位置での矯正治療が可能になりました。このことにより、顎関節の問題が起こりにくだけでなく、適正な咬み合わせの関係を考慮した治療が可能となりました。この結果、歯と顎関節にとって最適な咬み合わせを確保することができるので、長期安定しやすい矯正治療を行うことができます。

④術前に治療後の歯並びが確認できる

インビザラインは歯型をコンピューターに3Dで読み込みます。そのデータからコンピューター上で個々の歯を動かして矯正治療後の理想の歯並びをシュミレーション(模擬的に再現)します。その結果、治療後の状態を確認することができます。



⑤歯をできるだけ抜かないもしくは、抜く場合と抜かない場合を比較検討できる。

従来の矯正治療は歯を並べるための隙間を確保するために一部の歯を抜いていました。一方、インビザラインはIPR(歯と歯の間を削る)を積極的に取り入れることで隙間を確保します。この方法は精密なコンピューターシミュレーションによって可能になった方法で、治療開始から何週間目にもどの部位を0.1mm単位でどれだけ削れば良いかまで術前にわかります。また、歯を抜く場合とIPR主体の場合の治療方法をシュミレーションできるので、それらを比較してから治療方法を選択することが可能です。

その他に、注目すべき点はその対応力の速さと進化のスピードで、これを可能にしたのが莫大なデータです。治療前、治療後だけではなく思うように歯が動かないときには治療計画を立て直すことができるので、治療の全てのデータはインビザラインの本社に常に集積されることで改善され続けています。これらの情報は定期的に報告されると共に指導医によっても検証されています。アジア地区の指導医の先生も「あまりの進化の速さについていくのが精一杯」とおっしゃっていました。

しかしながら、いいことばかりではありません。まだインビザライン矯正ではできないこともあるので、今後の更なる進化に期待しているところです。

詳細はHPとブログに記載していますのでご覧ください。





Tobita library

とびた図書館

土木

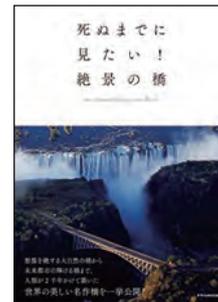
神戸の歯科医院に勤務していた時に近所の料亭のオーナーと親しくなりました。その方の知人で、ゼネコン関係の方とじっくりお話する機会があったので興味本位で「曲がったトンネルはどうやって作るの?」「橋やダムの作り方」など質問しました。一般人では知り得ない現場での出来事などを教えていただき、それまでさほど興味のなかった土木という未知の世界に接することができたことに感激しました。

そんなことから、この分野に少し魅かれるものがあります。そのため、今回も待合室用と言い訳しながら購入した本です。私なりの解説ですが興味がある方はぜひご覧ください。また、旅行好きな方であれば国内、ヨーロッパ各地の数々の土木が掲載されていますので、ちょっと違った観光ができるかもしれません。



「AMAZING CONSTRUCTION ZONE」

橋、トンネル、ダムの工事現場を撮影された写真です。まずはその巨大さと、特殊な機材に目を惹かれるのですが、写真の美しさにも見入ってしまいます。橋はその構造によって作りかたが違うこと。トンネルも同様に巨大シールドマシンから特殊な機材を使っでの掘削、またライトアップされたトンネルは美しい写真にもなっています。ダムは写っている人からその巨大さがわかります。それだけで圧倒されてしまいます。巻末に建設方法の解説がありますので、興味がある方はぜひ。



「死ぬまでに見たい! 絶景の橋」

左の写真集を見た後でこの本を見ると橋の建設方法に思いを馳せてしまいます。周囲の風景と共に美しい写真として楽しめますが、谷底と橋との高低差にぞぞ、、となってしまう橋もあります。美しい橋や古代の橋など様々な橋の写真集なのですが、変わり種は橋の上に橋、変わった跳ね橋、川の中の橋?など言葉では説明できないのでご覧ください。



「欧州のドボクを見に行こう」

表題どおりの数々の欧州の建築物の写真集です。国別に掲載されていることと、解説文がしっかりありますので、観光ガイドとしても使えるような感じです。私が特に興味を引かれたのが、ベルギーの船のエレベーター、スイスの巨大なダム、オランダの堤防と変わった建物です。

本を見ながら土木に興味を湧いたのは私だけでしょうか。

210mm X 99mm

あけましておめでとうございます。

ご家族のご多幸と共に、健康なお口が維持でき、
楽しい食生活が送れることをお祈りしています。

平成29年 元旦



年賀



飛田歯科医院 院長、スタッフ一同
〒700-0806 岡山市北区広瀬町 11-19